

スターチスにおける固化培地を用いた常温育苗苗とクーラー育苗苗の現地比較試験

農業試験場 暖地園芸センター 研究員 菊地悠太

背景

- スターチスは出荷量・作付面積とも全国1位
- メーカー品種(栽培面積の75%)は定植苗で購入するため種苗費が高い(300円/株)
- 県、農家オリジナル品種(栽培面積の25%)は種苗費削減のため安価なプラグ苗を購入し、クーラー施設で自家育苗(240円/株)
 - クーラー育苗にかかるコスト(減価償却費、電気代など)の削減が求められる
- 暖地園芸センターはこれまでにクーラー育苗期間を短縮できる常温育苗技術を開発
 - 育苗コストを30%(17円/株)削減可能に

目的

常温育苗技術の栽培現場への普及へ向けて、現地における実用性を検討する

実施主体：日高野菜花き技術者協議会 (JA紀州、日高振興局、暖地園芸センター)

育苗方法・耕種概要

試供品種：紀州ファインバイオレット、紀州ファインラベンダー 各20株

紀州ファインバイオレット

常温育苗区

材料：288穴プラグトレイ
鉢上げ：2020年8月5日
温度設定：なりゆき
培地：すいすいポット
遮光率：60%
施肥：IBS1 1粒
かん水：ミスト散水
(7:00~18:00、1回30秒/30分)

クーラー育苗区(農家慣行)

材料：288穴プラグトレイ
鉢上げ：2020年7月16日
温度設定：昼間20℃、夜間15℃
培地：イチゴ培土(50穴セルトレイ)
遮光率：50%
施肥：農家慣行
かん水：手かん水(1回/日)

耕種概要 株間：36cm 条間：30cm 畝幅：170cm 2条千鳥植え
定植日：令和2年9月1日 ハウス被覆日：令和2年10月14日
栽培管理：農家慣行

紀州ファインラベンダー

常温育苗区

材料：288穴プラグトレイ
鉢上げ：2020年8月5日
温度設定：なりゆき
培地：すいすいポット
遮光率：60%
施肥：IBS1 1粒
かん水：ミスト散水
(7:00~18:00、1回30秒/30分)

クーラー育苗区(農家慣行)

材料：288穴プラグトレイ
鉢上げ：2020年7月18日
温度設定：16℃一定
培地：花と野菜の培土
(72穴セルトレイ)
遮光率：70%
施肥：農家慣行
かん水：手かん水(1回/日)

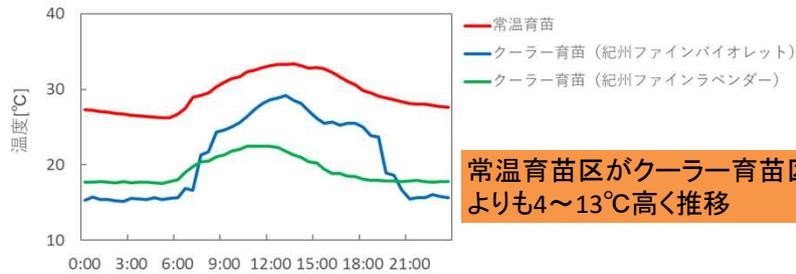
耕種概要 株間：25cm 畝幅：150cm 1条植え
定植日：令和2年8月28日 ハウス被覆日：令和2年10月13日
栽培管理：農家慣行



すいすいポット



常温育苗中の紀州ファインラベンダー



常温育苗区がクーラー育苗区よりも4~13℃高く推移

図1. 各育苗施設の気温の推移(2020年8月5~25日の平均値)

初期成育

株径：定植時は同程度であったが、常温育苗苗の方が大きく推移 葉枚数：定植時から常温育苗苗の方が多く、定植後も同様

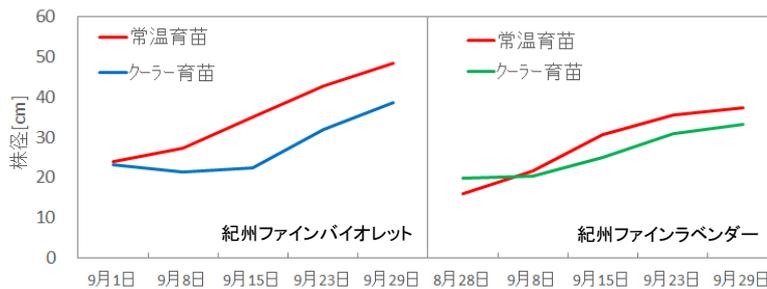


図2. 常温育苗苗とクーラー育苗苗の株径の推移

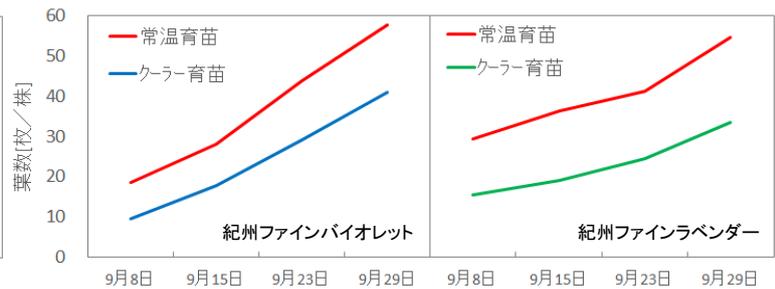


図3. 常温育苗苗とクーラー育苗苗の葉枚数の推移

収量

収量：常温育苗苗はクーラー育苗苗よりも10~12月の収量が多い

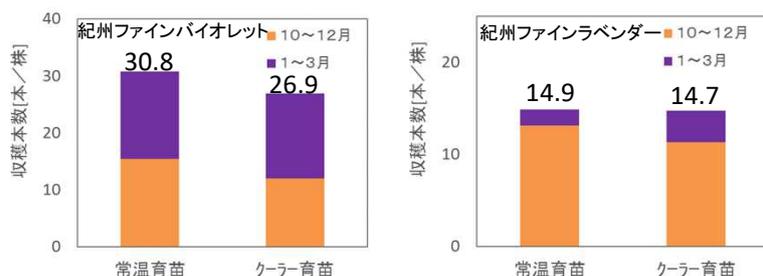


図4. 常温育苗苗とクーラー育苗苗の収量

品質

品質：常温育苗苗は収穫初期から草丈が長く、切り花品質が良い

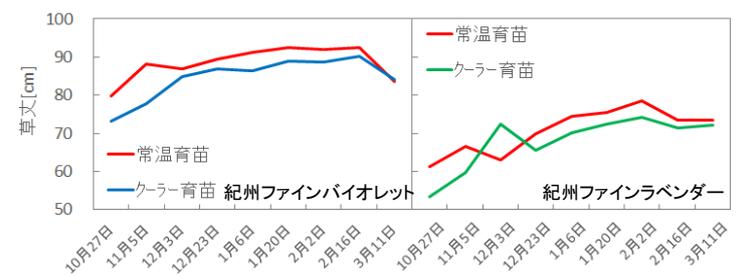


図5. 常温育苗苗とクーラー育苗苗の草丈の推移

まとめ

- すいすいポットを用いた常温育苗苗は初期生育が良く、収量、品質ともにクーラー育苗苗を上回った
 - 育苗時コストの削減に加え、増収・高品質化による粗収益の増加が期待できる
- 今年度は現地育苗施設において常温育苗を行い、他品種の適応性調査を実施中